

2026 年度 茨城キリスト教大学大学院

生活科学研究科 心理学専攻

Ⅱ期 入学試験問題

【専門科目】

試験時間 13:45 ~ 14:45 (60 分)

諸注意

1. 試験監督者から「開始」の指示があるまで、この冊子をめくってはけません。
2. 解答を始める前に、必ず解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 試験内容に関する質問は受け付けません。問題用紙はこの表紙を除いて2枚、下書き用紙は1枚、解答用紙は1枚です。印刷上の不備があった場合などは手をあげて監督者に知らせてください。
4. 試験中に気分が悪くなったときなどは、手をあげて監督者に知らせて下さい。
5. 試験終了後、問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

問1. 以下の問題に解答せよ。

① 防衛機制について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 抑制とは、自我の受け入れがたい経験を意識から締め出すメカニズムであり、あらゆる神経症的防衛メカニズムの基本とされる。
- b) 退行とは、欲求が阻止されると、欲求を満たすことができていた以前の発達段階に無意識に後退することをいう。
- c) 否認とは、外的な現実の一部または全部を無意識のうちに拒絶する機制のことをいう。
- d) 合理化とは、自己の正当性を図り、自分の望んだ言動を不安を起こすことなく遂行しようとする機制のことをいう。

② クライアント中心療法について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) クライアント中心療法は、1940年代に Rogers, C.R.によって初めて発展させられたアプローチである。
- b) 第一の発達段階は指示的療法の段階であり、許容的な雰囲気を作成すること、受容と感情の明確化を行うことなどを特徴とした。
- c) 第二の発達段階は狭義の“クライアント中心療法”の時期であり、クライアントの感情や態度の反映を重視することなどを特徴とした。
- d) 第三の発達段階は“体験的心理療法”ないし“体験過程療法”といわれる時期である。

③ フォーカシングについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) フォーカシングは、Gendlin, E.T. が開発した心理療法および自己理解のための視点と方法である。
- b) フォーカシングの背景には、「体験過程哲学」や、その哲学を心理学に応用した「体験過程理論」などの理論がある。
- c) フェルト・センスとは、フォーカシングの鍵概念であり、「意味を含んだからだの感覚」のことである。
- d) からだが求めている特定のものが見いだされた時には、「フェルト・センス」あるいは「体験的一步」という体験的变化が起こる。

④ 心理療法に関連する記述について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) ベーシック・エンカウンター・グループとは、Rogers, C.R.の理論と仮説に基づいて行うエンカウンター・グループを指している。
- b) 自我心理学とは、Freud, S.の精神分析理論における自我、イド、超自我の心的構造と、

この意味での自我の成り立ちと各機能を中核におく精神分析の学派である。

- c) Eysenck, H.J.が提案した行動療法は、抑圧された無意識内容を意識化することを目的とした心理療法である。
- d) 箱庭療法のもとになったのは、子どものための心理療法として、Lowenfeld, M.によって創始された世界技法である。

⑤ 心理学の記述について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 古典的条件づけはロシアの生理学者である Pavlov, I.P.の条件反射として知られている。
- b) オペラント条件づけは、強化によって、条件刺激と条件反応の連合を強めるものである。
- c) 気質とは、パーソナリティの訳語であり、その語源はラテン語のペルソナに由来している。
- d) 典型的な性格を設定し、それによって多様な性格を分類する方法を類型論という。

⑥ 心理アセスメントについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) バウムテストは、投影法に分類されるパーソナリティ検査である。
- b) ウェクスラー式知能検査は、個別式の発達検査である。
- c) MMPI は、質問紙法に分類されるパーソナリティ検査である。
- d) 内田クレペリン検査は、作業検査法に分類されるパーソナリティ検査である。

⑦ 精神疾患とその治療について、誤っているものを一つ選びなさい。

- a) ADHD は、不注意、多動性、衝動性を中核症状とする神経発達障害に分類される代表的な脳機能障害である。
- b) 限局性学習症は、読む、書く、計算する、または推論する能力などのうち特定のものの習得と使用に著しい困難をしめすことが主要症状である。
- c) パニック症は、危うく死ぬまたは重症を負うような外傷的出来事を体験したり、目撃したあとに生じる疾患である。
- d) 心身症は、身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的な因子が密接に関与し、器質的ないし機能的障害が認められる病態をいう。

※ ⑧については、問題に不備がみられたため非掲載とし、採点からも除外した。

問2. 以下の問いに答えなさい。

インテーク面接の位置づけとインターカーの役割および対応における留意点について 400 字程度で述べよ。

2026 年度 茨城キリスト教大学大学院

生活科学研究科 心理学専攻

Ⅱ期入学試験

解答および採点のポイント

問 1.

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
a	b	d	c	c	b	c

問 2.

1. 解説

心理的支援の場として代表的ともいえる面接に関する基本的知識を問うものです。目安となる 400 字前後を目標に専門的擁護を端的に用いて記述できるとよいでしょう。後に解答例を示しました。参考にしてください。

解答にあたっては、量的および質的観点のふたつの視点をもつとよいでしょう。量的観点には、先に示したような一定量の記述が伴うことに加えて、誤字脱字や口語表現がないこと等が重視されます。また専門用語については、特に表記に誤りのないことが求められます。なお著しい悪筆や解読困難な解答は、採点の対象にならないことがあります。丁寧な記述を心がけましょう。一方、質的観点としては、設問に対して専門的学びを積極的に活用して解答することが求められます。問われている内容に応じて、次のような視点をもって解答できるとよいでしょう。

(1) 論理的整合性(段落構成の適切さ 論旨の明確さと一貫性等)

(2) 専門的整合性(対人支援の基盤となる面接における基本的知識を問うものであり、
インタビュー面接の目的とその後の支援にむけた具体を専門的観点から適切に言語化することが求められる。また必要に応じてリファーマーの手段があることについても言及できることが望ましい)

(3) 内省的態度（要支援者の主体性の尊重や支援者自身の自己覚知と自己研鑽の重要性についての言及や視座がみられること）

さらに本学では、建学の理念に基づき、次に示すような点を重視しています。

(1) 公正性（人間に対す対等性と人権尊重）

(2) 多様性（人間に対する寛容性 差別的排他的態度がみられないこと）

(3) ボランティア（他者、社会と積極的、主体的にかかわる態度）

これらを踏まえ、解答においても要支援者の権利性を遵守する態度とともに、心理専門職従事者として生涯学習を旨として自己覚知と研鑽に主体的に臨む態度を示すことができるとよいでしょう。

2. 解答例

インテーク面接とは、要支援者が相談機関を初めて訪れた際に行われる初回面接のことであり、それを担当する支援者のことをインテーカーという。インテーク面接には重要な意味があるため、インテーカーには高い専門性が求められる。

インテーク面接における支援者の基本的姿勢は、受容、傾聴、共感である。インテーカーは、要支援者の緊張や抵抗に対して、信頼関係の形成への視座をもって、先述した基本的姿勢を大切に丁寧な対応が求められる。また信頼関係の形成にあたっては、守秘義務や安全配慮の説明と理解、その同意を得ることも重要である。これが適切に行われることが、その後の支援における協同的関係の構築につながっていく。

さらにインテーク面接では、主訴や生育歴、家族関係等の基本情報の把握に加えて、当該相談機関において対応できる支援内容や限界を示すことも重要となる。その上で、必要に応じて他の相談機関を紹介するというリファーへの展開が図られることもある。その際にもインテーカーには丁寧な説明と理解と同意を得る対応とともに、リファー後も要支援者自身が主体となって課題達成に取り組むことができるための支援として連携先との協働が求められる。